

当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略 各重点推進プロジェクト進捗 状況等に係る意見書

平成27年10月に策定した当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略について策定後一定期間が経過し、4つの基本目標より構成される14の重点推進プロジェクトにおける進捗状況、平成29年度予算計上の状況並びに平成28年度末の各基本目標における数値目標及び各重点プロジェクトにおける重要業績評価指標（KPI）の説明・報告を受けたことを踏まえ、次のとおり本委員会から意見を付しますので、町は戦略目標の達成に向けてより一層の事業推進に努められることを望みます。

1 人口減少について

当別町の人口は、各重点推進プロジェクトの事業効果が表れる平成32年から緩やかに増加となると見込まれておりますが、平成29年1月1日現在1万7千人を大きく下回っている現状からも、危機感をもって人口増加に向けた取り組みを全庁あげて検討する必要があります。

2 総合戦略の進捗状況に対する意見

(1) 基本目標1 産業力の強化

- ・雇用創出について、労働力の需要と供給形態にミスマッチがあるのであれば、どのような対策をするのか各種統計データを活用し様々な角度から分析・検討をする必要があります。【基本目標1全般】
- ・企業誘致ゾーンでは、その地域特性に応じた企業の立地を促進することが重要です。誘致にあたって課題である上下水道及び高圧電源等インフラ整備のビジョンについて、誘導すべき企業の見通しやニーズを踏まえ、整理・検討をする必要があります。【食の総合拠点づくりプロジェクト】

- ・町の農業について高齢化で担い手が少なくなり労働力が減っている現状においてGPSやITを使用することは効率化の面では大変有効であるが、次々に導入していくには資金等の問題があるので、ハイテク化とのバランスを農協や農業者等と協議しながら進める必要があります。【当別町農業10年ビジョン】
- ・大消費地である都市に近接しているメリットを活かし、都市と農業地域の交流の観点から都市居住者のニーズに即した多品種野菜の生産の検討を行う必要があります。【当別町農業10年ビジョン】
- ・道の駅のオープンが近づいており時間的に難しい面があると認識しているが、道内には他の道の駅や魅力的な商業施設が多数あるので、道の駅自体の魅力が必要となります。また、札幌市北区、東区を中心とした観光入込客数（交流人口）に頼るばかりではなく、町民が利用したい、町民に愛される要素を多数取り込むよう検討する必要があります。【当別町道の駅プロジェクト】

(2) 基本目標2 エネルギー地域分散型都市の形成

- ・街路灯のLED化については、当別町が所有している道路照明等を積極的に行う必要があります。また、町内会街路灯LED化の補助制度については、財源の乏しい町内会が実施しにくい状況であることから、各町内会の実情に応じた補助のあり方についての検討を行う必要があります。
【再生可能エネルギーによる地域循環型社会構築プロジェクト】

(1) 基本目標3 まちに人を呼び込む「定住・交流」の促進

- ・町内アパートの入居率が9割を超えている状況の中、新たなアパート建設が進まないことについての現状分析を様々な角度から行う必要があります。また、分析によって明らかになった課題に応じ、行政による優遇策を含めて検討する必要があります。【移住促進プロジェクト】

- ・コミュニティバスの新路線である西当別一道の駅線における、道の駅利用者の往復運賃負担について、道の駅で飲食や野菜購入等をした方はバス料金を無料化する等、バス利用が増える方策の検討を行う必要があります。また、小学生以下や65歳以上は無料等の検討も行う必要があります。

【公共交通活性化プロジェクト】

- ・町の施策を検討する際には、地域単位で考えることが必要です。都市空間における一要素（例：居住）は、他の要素（例：商業、公共公益等）と相互依存関係にあるため、定住・交流の促進について検討する際には、公共公益施設の再配置・集約化等を含む居住以外の要素の配置と合わせて総合的に検討する必要があります。【基本目標3全般】

(4) 基本目標4 未来を担う子どもの育成と町民が幸せに暮らせる社会の形成

- ・幼児教育と同時に高齢者の生きがいの場としての面も考慮し、子ども達と高齢者が同時に勉強できる・遊べるといった取り組みを施設や組織の内容も含めて推進する必要があります。例えば、読書会や高齢者による昔話の語り、農業体験として畑作り、収穫することなどが考えられます。【基本目標4全般】

- ・子育て環境の充実、子ども育成は大変重要であるため、町が現在実施している各種施策の更なる充実・拡充に加え、保育所・認定こども園利用者負担額の無償化や給食費の無償化等の早期実現に向けた取り組みを推進する必要があります。【子育て世帯応援プロジェクト】

(5) その他意見及び総合戦略全体を通じて

- ・当別町にドローンの練習場が開設されましたが、ドローンを核としたまちづくりを実施している町は少ないと思われます。ドローンを活用した農業データの収集・分析、農薬散布等農業分野でも様々な活用方法が出てくると思いますので、観光分野での活用に限らず、様々な分野で活用することを期待しています。

- ・道の駅は観光・防災拠点として活用することはもちろん、地域内外の多様な人の流れができることから、将来的に観光以外でどのような機能を持たせるのかということも大変重要になります。例えば、地域生活の拠点、福祉サービスとの拠点やバスの乗り継ぎ場所等、地域の方々に道の駅を有効に活用して、当別町のまち・ひと・しごと創生の拠点とすることも考えられます。

3 重要業績評価指標（K P I）について

各重点推進プロジェクトにおける平成28年度までのK P Iについて、平成29年度、また、戦略目標である平成31年度目標達成に向け、K P Iの数値等が目標達成に向かっているか改めて検証を行い、目標達成のシナリオを組み立てる必要があります。

以上